

白川わくわくランド寺子屋 源流探検

「いたぞ!いたぞ! サワガニ・タカハヤ・
チラカゲロウ・・・」



阿蘇谷・紅地川で (北外輪山から流れ下る小さな川)



この夏は3回ほど
白川体験をしました。
川の流れをとらえて
泳いだり、カヌー体
験をしたり、川の中
での身の処し方を習
ったり、水制から飛
び込みながら、水
の怖さを学びました。

長雨がやっと終わったと思っただけに、暑い夏になりま
した。この暑さの中でも、子供たちは元気でした。
自由研究で夏休みの間ずっと白川の水と関わった子どもたち、
兄弟・友達でクイズに挑戦しに来た子供たち、水鉄砲を楽しん
だ子供たち、カヌー体験をした子供たち等々。
そして、白川わくわくランド寺子屋にも多くの子供たちが参
加してくれました。

「夏を謳歌する子どもたちの姿」

白川わくわくランド ニュース

第25号

発行
●白川流域住民交流センター
(白川わくわくランド)
〒860-0854
熊本市東子飼町8-55
TEL・FAX (096) 346-5454
ホームページアドレス
<http://www.wakuwaku-land.com>
メールアドレス
wakuwaku@wakuwaku-land.com

龍田中学校3年 総合学習の関連で

御船町恐竜博物館から



館内で「川の流れ実験」を観察



川原の石調べ

御船町恐竜博物館から55名の子供たちが来館し
ました。「川の流れと石の向きを観察」「川原の石
の観察」「川の成り立ちの観察」などの学習が化石
などの発掘に関係するということでした。

白川の橋② 小磧橋

河口から数えて
21番目の橋。
橋長は91.20m、

上・下流に歩道が設置されている。昭和
34年8月の架設で新南部町所在になる。

小磧橋下流左岸では、今から1400
年ほど前の住居跡の発掘が、熊本県教育
委員会文化課によって行われた。白川を
隔てて右岸には横穴式の墓域があり、古
くから人々は川沿いに生活の場を築いた
ことがわかる。

現在、住居跡は埋め戻されているが、
発掘の状態などの写真が、左岸「小磧水
辺公園」内に掲示板として設置される。



橋の上から右岸上流を見る。
山の腹に古墳がある。



兩岸の主要道路を結ぶ橋
としてかなりの交通量がある。

川・生きものな体験に自由研究

夏休みは楽しいけれど、自由研究なる宿題が子供たちを待っています。

今年も白川流域に住む子供たちが、たくさん来館しました。テーマは、川の水環境や水辺の生きもの・白川に架かる橋など。事前にある程度の現地調査・採集・写真撮影などを済ませてきた親子連れもあり、白川わくわくランドではそれぞれのテーマに沿って採集・観察・実験・資料探しを行いながらまとめ方も考えました。

わくわくランドのスタッフは、その手伝いとアドバイスです。



家族旅行の先々で水調査を行ううちに、水についての興味が深まりました。「地元の白川の水質調査」を最後にやってまとめます。

わくわくランドは、水生生物調査のお手伝い。

テレビでみた「コムズムシ」の不思議な習性。

「一体どこに棲んでいるのだろう」「私も飼って実験したい」が自由研究になりました。

わくわくランドは、コムズムシの居場所探しのアドバイス。

その親子からわくわくランドへコムズムシのプレゼントがありました。



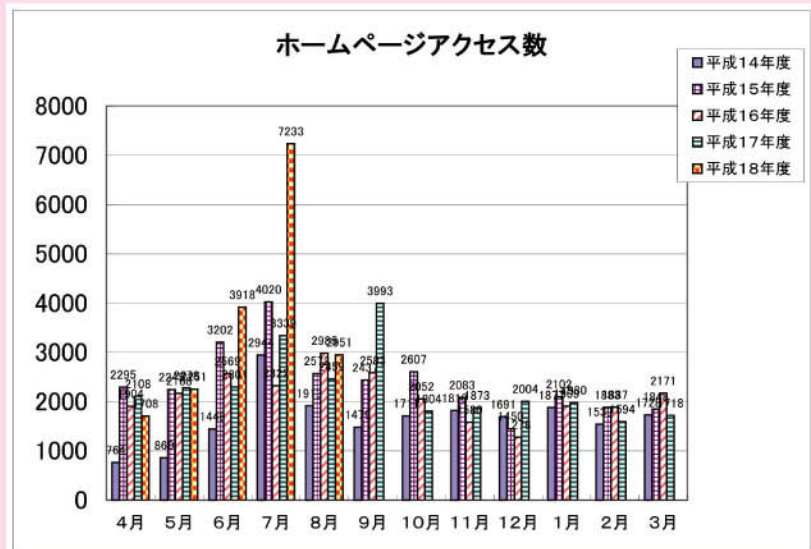
小さく切った色紙とコムズムシを容器に入れると、コムズムシは底に沈んだ色紙を後足4本で抱えて浮き上がってきます。俗に「風船虫」といわれています。



毎日のようにわくわくランドに通った夏でした。近くの学校の六年生。3人でやってきて水質調査をしたり、生きものを調べをしたり、一夏根気よく自由研究をやりました。

時には、水鉄砲で無邪気に遊びましたが……。

ホームページアクセス7月断然トップ



ホームページアクセス数(平成17年度～18年度)

きれいになりましたね。白川の水。



子飼橋の近くお住まいの六十歳代の方。テナガエビを釣ってわくわくランドに持ってきてくださいました。

「水槽に入れてください。白川もきれいになりましたね。」

小さいときから白川を遊びの場所にしておられたとか。当時よくテナガエビも釣れたけれど、一時期すっかり釣れなくなった時期があったそうです。

でも、最近また釣れるようになったとうれしそうにおっしゃいました。白川の水が浄化されている証拠でしょうか。



今年も、四月以降雨の多い日が続きました。特に七月は雨量の多い日が続き、ホームページへのアクセスが非常に多い月になりました。月平均二千件前後のアクセスですが、今年の七月は、七千二百三十三件ありました。

大雨の時、トップページの「白川たいま生中継」へのアクセスが多かったものと思われれます。ここでは、立野水位観測所・子飼橋・大甲橋(上・下流)の四地点の白川の様子をリアルタイムで見ることが出来ます。河川沿いの方々は、水位の変化を画像で確かめることによって洪水への備えも出来ます。

いずれにせよ、市民の方々が川へ関心を深めていただいていることは嬉しい限りです。

寺子屋わくわく講座

「地球のダイナミズムを知る」

～日奈久断層からチベットまで～



日時 平成十八年七月十五日(土)
 講師 九州東海大学工学部 岩下 篤 教授
 場所 白川わくわくランド
 参加者 三十名

本年度のわくわく講座のテーマは、「自然と災害」～防災・減災の可能性～です。昨年のテーマ「災害と防災」の学習から、もう一度自然の力に立ち返ってみようと考えたからです。

今回第一回目は「地震」を取り上げました。

二〇〇四年十月には新潟県中越地震で五十数名の犠牲者が出て、十二月のスマトラ沖地震では二十二万余の命が一瞬にして無くなりました。本年も五月にはジャバ島地震が発生し四千六百余人命を失いました。

「地震は決して遠いところの話ではない」そんな思いから今回の講座を計画しました。

この講座では、まず「なぜ地震が起きるか」

「地震波種類と伝わり方」について説明がありました。さらに地球のダイナミズムということと日奈久断層や台湾東部の花東縦谷・チベット高原を例に取りながら、衛星リモートセンシング画像を用いて講義していただきました。はじめて観る画像や処理された観測データに驚きとまどいを覚えながらもあつという間の二時間でした。先生の言葉の「地球の鼓動をとらえる」を実感した講座でした。

最後におっしゃった「地震では死なない。犠牲者はそれで派生する家屋倒壊や火災などによるものである。最初の三〇秒を生き延びることが大切」と言う言葉が印象的でした。

地球を観る(電波で観る)

- リモートセンシング (離れた所から物質の性質を感知する技術)
- 物理探査 (ダイナマイト)

地球を聴く(地下構造を音で聴く)

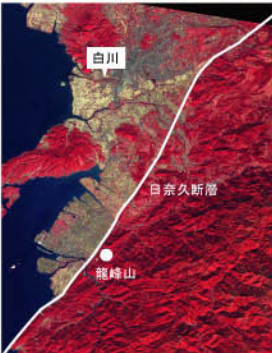
地形の解析

- 日奈久断層(断層の位置・断層事態がもつ地形的特徴・周囲の地形との関係)
- 台湾の花東縦谷(地殻変動による変位置の情報)
- チベット高原プマユムツォ湖周辺(インド大陸の北上により大規模な隆起の確認)

写真上 フォールスカラーの衛星画像。御立岬から阿蘇に伸びる日奈久断層がよく見える。
 写真下 龍峰山から南西方向を見る。左側の山並みと右側平地の境界が断層と考えられる。

- ◆SPOT4
- ◆Landsat
- ◆ASTER

人工衛星画像



川の豆知識 10

ワンド

ワンドとは、川の流れとつながった河川敷の小さな池のことです。川の水の流れの中で自然に出来ることもありますが、水の流れる速さをおさえるために設置された水制に囲まれたところに土砂がたまりできたり、また、意図的に多自然型工法の一方法としてワンドを造ったりします。

ワンドの語源ははっきりしませんが、辞書には「灣処」一入り江 とあり、地方によっては「川の淀み」「入り江」などを「わんど」と呼ぶところがあるそうで、今では一般的にカタカナで「ワンド」と呼ぶようです。

ワンドの中は、水の流れがほとんどないため、動物や植物など様々な生きものの住処になっています。

白川流域でも人工的に造られたワンドが小碓橋下流左岸の小碓水辺公園内に造られています。コイやフナの産卵場所になったり、コサギなどの餌場になったりしています。



ワンド内に積もった土の上には無数の水鳥の足跡が残り、コサギが踊るよう水の中で餌を取っている。(小碓水辺公園で)